Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

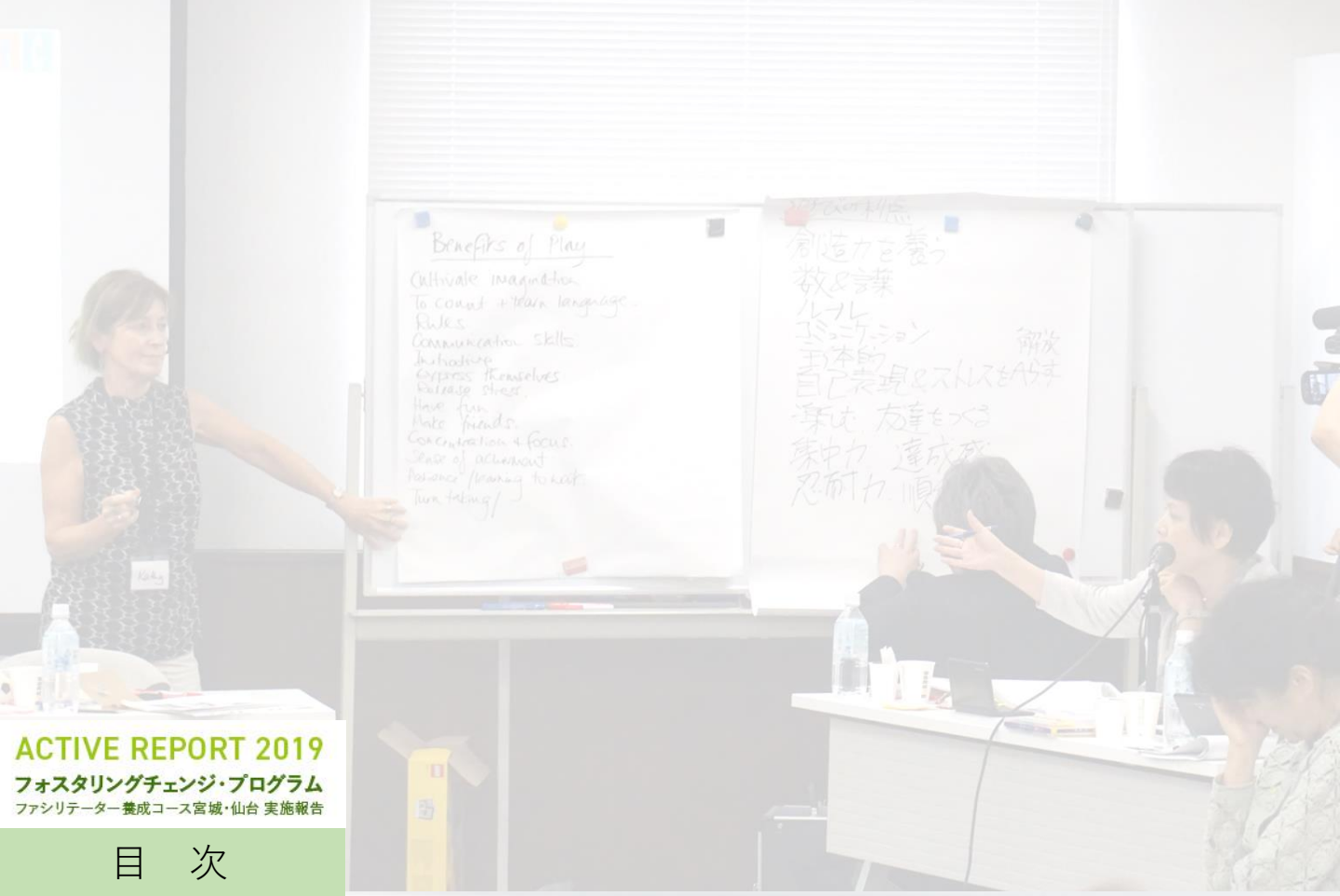
フォスタリングチェンジ・プログラム

ファシリテーター養成コース宮城・仙台 実施報告

2018年度

2019年3月

みやぎ里親支援センター けやき



ACTIVE REPORT 2019

フォスタリングチェンジ・プログラム

ファシリテーター養成コース宮城・仙台 実施報告

目　次

●はじめに …… 01

●実施報告 …… 02

❶ フォスタリングチェンジ・ファシリテーター養成コース宮城仙台　8月27日~31日

❷ ファシリテーター・フォローアップミーティング　12月14日

❸ 各地での実践状況

❹ 各地実施への支援について

●総括・結びにかえて …… 11

●関連資料 …… 12

フォスタリングチェンジプログラム（概要）

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

はじめに

フォスタリングチェンジ・ファシリテーター養成コースの開催にあたって

卜蔵　康行（ぼくら　やすゆき）
みやぎ里親支援センターけやき　センター長

今般、公益財団法人日本財団様のご助成により、2018年8月「フォスタリングチェンジ・ファシリテーター養成コース」（以下、養成コース）を実施致しました。養成コース並びに関連事業終了にあたり、この度「報告書」を作成致しました。
「フォスタリングチェンジ・プログラム研修」は、平成２８年度より各地域で実施され、様々な報告から今後の里親支援の有効なツールとなることが見込まれています。
これまでは西日本地域で多く実施されていましたが、より広域的な実施が望まれるようになりました。その為、フォスタリングチェンジ・プログラム研修の全国展開を目指し、ファシリテーター養成コースの東北開催ということが考えられ、ファシリテーター養成講座企画アドバイザーであられる長野大学上鹿渡和宏教授から、当センター主催による開催の打診を受けました。そして、日本財団様からの助成のもと、本養成コースの実施となった次第です。
養成コースを終え、今年度中に実際に研修実施に至った地区は多くはありませんが、次年度の実施に向け準備が進んでいることと思われます。今後、実施地域の拡大により多くの里親さんに研修受講の機会が提供されることを願ってやみません。
最後になりましたが、英国から養成コースに講師として来日し、ご尽力いただいたキャシー・ブラッケビィ氏、キャロライン・ベンゴ氏をはじめ、本プログラム並びに養成コースの実現にご尽力頂きました関係者の皆様にあらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。

「フォスタリングチェンジ について」

上鹿渡 和宏（かみかど　かずひろ）
長野大学社会福祉学部 教授
（フォスタリングチェンジ・ファシリテーター養成コース 企画アドバイザー）

フォスタリングチェンジは1999年ロンドン・モーズレイ病院の専門家チームによって開発された子どもが委託されている里親のための研修プログラムです。アタッチメント理論、社会的学習理論に基づき、週1回3時間程度、里親グループ（6～10人程度）でのセッションを12回実施します。社会的養護下の子どもの抱える課題、様々な虐待の影響に配慮した子どもの視点での理解とそれに基づく対応について学びながら実践を続けることで、子どもの行動の背景にあるニーズに気づき、対応できるようになることを目指します。里親の自尊感情や自信を回復する重要性が明示されている点も特徴的です。参加者は必要な専門的知識を子どもとして、また親としての自身の経験に照らしつつ、他の養育者の経験やロールプレイ、グループ討論などを通して学び、それが確実な実践につながるように工夫されています。このプログラムでは、まず子どもとの関係の改善・向上に力点を置きます。問題行動の解決のみに焦点化するのではなく子どもとの良好な関係形成に力を注ぎます。問題行動への直接的アプローチに類する実践的スキルは後で学ぶことになります。ロンドン大学キングスカレッジのチームにより、このプログラムの短期的効果についての評価もなされ効果が確認されています。

【左/英国講師キャロラインさん、中央/キャシーさん　右/卜蔵センター長】

【右から/上鹿渡先生、松﨑先生、佐野さん、長田さん】

実施報告 ❶

フォスタリングチェンジ・プログラム ファシリテーター養成コース

ＦＣＰファシリテーター養成コース

実施日・時間	2018年8月27日(月)～8月31日（金）9時30分～17時30分（8月27日のみ10時開始：8月31日のみ16時終了）
場所	PARM－CITY131貸会議室4階（4G・4H）　※仙台市青葉区
準備期間	2018年4月2日(月)～8月26日（日）
参加者	ファシリテーター養成コース：22名（12道県）　オブザーバー参加18名（延べ40名/5日間）
講師	Kathy Blackeby　キャシー・ブラッケビィ 氏（ロンドン大学キングスカレッジ） Caroline Bengo　キャロライン・ベンゴ 氏（ロンドン大学キングスカレッジ）　※逐次通訳付き
スタッフ	【日本人スーパーバイザー】上鹿渡和宏（長野大学）・松﨑佳子（広島国際大学・SOSCVJ） 【主 催】（社福）仙台キリスト教育児院 みやぎ里親支援センターけやき（FCP養成コース　宮城仙台事務局） けやき：卜蔵　小野寺　菅原　遠藤　田頭　けやき協力員：鈴木　石垣　丘の家子どもホーム: 大内 英国講師補助：大城（東北福祉大学）　逐次通訳：田中道子 ／ 徳永悦子(ｲﾝﾀｰｸﾞﾙｰﾌﾟ 仙台支社)／
その他	取材・視察 3社（NHK厚生文化事業団、河北新報社、日本財団）
研修概要	ファシリテーター養成コースは、プログラムを実施するファシリテーターとなるための5日間のコース。英国で同コースを担当するソーシャルワーカー2人を講師として招き、プログラム実施のために必要なファシリテーター用日本語テキスト（提示用パワーポイント、配布資料のデータ付）を用いて、実際のプログラムと同様のグループ形式で実施。プログラムへの参加が里親としてどのような経験になるのかも体験しながら、本コース終了後ファシリテーターとしてプログラムを実施できるよう、必要な知識や方法を具体的に学ぶ。 フォスタリングチェンジ プログラムを構成する以下12セッションの内容から重要部分を取り上げて説明、実演、ロールプレイを実施。　主な内容は、以下のとおり。 ①グループの立ち上げ、子どもの行動の理解と記録　②行動に影響すること、先行する出来事と結果 ③効果的に褒める事　④肯定的な注目　⑤子どもが自分で感情をコントロールするためのコミュニケーションスキル ⑥子どもの学習を支える　⑦ご褒美とご褒美表　⑧指示を与えること、選択的に無視すること ⑨肯定的なしつけと限界設定　⑩タイムアウトと問題解決のための方法　⑪まとめ ⑫今後について、養育者自身のケア 期間中、テキストの予習やホームワーク等、翌日の研修準備が必要。最終日は本プログラムを思春期の子どもへの対応にどう生かすかについての特別研修。養成コース終了後、各地域でのプログラム実践につなげるためのフォローアップミーティング等を実施する。
主な実施経過（概要）	事前準備（4月、会場予約・前回開催長野県上田から開催情報引き継ぎ・準備役割分担） 5月　参加希望確認（長野大学・上鹿渡先生、軽井沢学園・金子里親支援専門相談員） 6月　参加希望者22名確定。参加案内申込書配布 7月　参加希望者22名受講決定 8月　最終準備、当日実施（1名不参加/オブザーバー参加者代替） フォローアップミーティング開催準備（12/14）

実施概要 ＜8月27-31日＞

仙台市内の会場にて、8月27日より５日間、英国から2名の講師をむかえ、ファシリテーター養成コース22名、オブザーバー（40名 5日間合計）が参加し、5日間のプログラムを行った。フォスタリングチェンジ プログラムを構成する12セッションの内容から重要部分を取り上げて説明、実演、ロールプレイを行い、22名がファシリテーター資格を得た。最終日には、12歳以上の子どもたちを対象とした特別研修「１２＋」を実施し、思春期の子どもへの対応にどう生かすかについての研修も併せて行なった。

参加された方々の施設種別内訳は、児童発達支援センターから 2名、NPO 2名、児童家庭支援センター4名、児童養護施設9名、乳児院4名、児童相談所1名という構成であった。

●養成コース参加者22名属性

：地域別　東日本/北海道（札幌市）2名、青森2名、岩手1名、宮城（仙台市）2名、茨城2名、千葉2名、山梨1名 ＝12名
西日本/岐阜2名、山口2名、福岡1名、大分2名、沖縄3名＝10名

：職種別　保育士2名、社会福祉士1名、臨床発達心理士1名、心理士1名、里親支援専門相談員13名、里親等委託調整員1名、相談員2名、心理担当職員1名

プログラム 5日間の主な内容

日程	内　容　※〇数字は大まかな分類	その他（目的・目標等）
8/27-30 1日目 ↓ 4日目	① ・学習スタイル ・フォスタリングチェンジの内容と背景 ・本コースの趣旨 ・成人学習の原則 ・問題行動の原因 ・アタッチメント形成 ・社会的学習理論 ・宿題 ② ・宿題へのフィードバック ・褒める、遊ぶ、アテンディング ・子どもの感情コントロールを手助けする ・発表の計画 ・発表の準備 ③ ・ウォームアップ ・フィードバック ・第一回発表 ・思いやりあるリスニング ・問題解決 ・指示のしかた ・しつけ ・無視 ④ ・ウォームアップ ・フィードバック ・第二回発表 ・家族のルール ・アイ・メッセージ ・タイムアウト ・大切なもの ・エンディング ・ストレス管理とリラクゼーション ・評価 ・これから先を考える ・クロージング・ラウンド・認定証授与 	・フォスタリングチェンジについて、より詳しい知識を得る。 ・フォスタリングチェンジ・コース実施の趣旨と原則を理解する。 ・成人学習者が抱える個々のニーズに対応することで、ファシリテーションやグループワークをより確実に実施することができるようになる。 ・どのように効果的に褒めるかを学ぶ ・アテンディング・スキルについて学ぶ ・子どもの感情コントロールを手助けする方法について学ぶ ・発表を準備する ・発表 ・リフレクティブ・リスニングスキル （相手の言うことを相手の視点で聞くこと） ・適切な指示のしかた ・しつけ ・小さな問題行動への対処法としての選択的無視のしかた
8/31 5日目	⑤ 12歳以上の子どもたちを対象にしたセッション ・砕かれた社会通念 ・発達の段階 ・リスクとレジリエンス（弾力性・回復力） ・ニーズと行動 ・メンタルヘルス ・伝え返しによる傾聴（Reflective listening） ・一対一の時間 One on one time ・教育 ・「I（私は…）」メッセージ ・問題解決	12歳以上の青少年を対象にしたフォスタリングチェンジ・プログラムのファシリテーションを、ファシリテーターがより確実に実施できるようになる。 12歳以上の青少年を対象にしたフォスタリングチェンジ・プログラムについての知識の習得 マニュアル中の主要な相違点の実践 質疑応答

～受講者の感想の中から～ ※一部表現上の修正あり

▶「受講した内容を早く里親さんにお伝えしたいと思いました。同時に、この内容を理解してもらうために、まず自分自身の理解度をもっと高めていかなければならないとも感じました。」
▶里親会のサロンにて一度プレ研修（ABC行動分析）を行ったのですが、参加された里親さんから「ぜひ全部受けてみたい」との声が聞かれましたし、里親会会長からも『勉強する機会を欲しい』と言われています。時間や回数で躊躇されている方もいらっしゃいますが、何とか進めて行きたいと考えています。」

▶「今回参加させて頂き、このプログラムが事前里親家庭訪問の上で行われるもので、そのことによって家庭状況が把握できているということは、個別性への支援への的確さ、子どもの立場への理解、里親ならではの嬉しさ、苦しさを共有した中での実践が振り返りとなり、課題解決への具体的な糸口になると感じました。また、ファシリテーターの在り方も教育的ではなく、里親の主体性を重視しており、体験共有や課題解決方法をサポートしながら、次回までに試してみようという気持ちを支持していく姿勢であり、エンパワメントのきっかけになりやすく、今後の里親普及に伴って必要なものだと感じました。」

▶「理論を噛み砕き、わかりやすく伝えたり、日々の実践に応用するためには、相当な学習量や経験値が必要になるなと感じました。まずは、テキストを何度も読み返さなくてはと、思いを強く持ちました。」

▶「とてもいいプログラムで1人でも多くの里親さんへ提供したいという思いがわきました。研修では、セッションの一部を3人で分担して体験しましたが、一部分をやるのにもかなり打合せをしたので、実際に今年度中にプログラムを実施できるのか？間に合うのか？不安もありました。」

▶「プログラムの構成が非常によくできているのはテキストを見て解ってはいたのですが、キャシーとキャロラインから受けた研修は私にとっては今までうけたことのないタイプの研修のひとつでした。

▶「プログラム全般的に、有効的な内容だと思った。ファシリテーターとしても、しっかりとしたテキストがあり、そのまま行えばよいというのは、不安を軽減してくれると思います。また、受講会場作りなども、里親さんを大切にしている雰囲気もあり、里親支援の在り方そのものも考えさせられるところがあった。また、里親に特化したとあったが、施設養護にも使えるのではと思いました。」

▶「里親さんの力を引き出すとてもいいプログラムだと思いました。県主催の里親支援機関連携会議で、デモンストレーションも含めて紹介しました。2020年度に実施できたらと思っています。」

第4回FCPﾌｧｼﾘﾃｰﾀｰ養成コースを受講されたメンバー

●養成コース後の動き

受講後は、各地域でプログラムが実施される。当センター（宮城仙台事務局）では、22名のファシリテーターの方々のフォローを行っていくとともに、上鹿渡先生をはじめ前回事務局（うえだみなみ乳児院）や次回開催地（和歌山県）等とのリレーションシップを図りながら対応していく。
その他、受講されたメンバーがプログラム実施決定の場合は、準備の支援（下記❹）についても行う。

❶ フォローアップミーティングの開催
❷ 次回開催地（和歌山県）へのフォロー（事務局 ノウハウ移転）
❸ 撮影VTR(DVD)資料作成（講師陣、次回開催事務局等への提供）
❹ プログラム実施決定団体への支援（支援希望された場合は、1団体5万円、先着5団体迄）

●アテンディング・スキルのデモンストレーションの様子

実施報告 ❷

ファシリテーター フォローアップミーティング（FM）

ファシリテーター・フォローアップミーティング（実施概要）

実施日・時間	2018年 12月 14日（金）10時00分～16時00分
場所	エル・パーク仙台　5階 / セミナーホール1・2
参加者等	ファシリテーター養成コース受講者　9名　講師//2名 スタッフ 5名 （みやぎ里親支援センターけやき4名+協力スタッフ1名）
講師	上鹿渡　和宏先生 / 長野大学社会福祉学部　教授 松﨑　佳子先生 / 福岡市子ども家庭支援センター「SOS子どもの村」センター長・広島国際大学心理学研究科 教授
概要	実践状況報告・SV /進捗状況等報告・SV・今後の予定・質疑応答
実施経過（概要）	事前準備（前回開催長野県上田から開催情報引き継ぎ・準備役割分担） ９月　会場予約 11月　参加案内申込書配布（一斉メール配信）、準備品購入 12月　参加希望者7名確定。最終準備 12月　フォローアップミーティング開催
参加地域	プログラム実施団体が少ないこともあり、宮城県・青森県・千葉県・仙台市の地域から4組の参加。
その他（課題など）	案内する対象範囲について等、第1~3回受講者を含む等、各エリアの事務局と確認しながら広報できればよかった。（他地域のF・FMと日程が近かったこともあった。）

● 宮城県・青森県・千葉県・仙台市の地域から4組の参加。進捗状況などの報告、またやりにくいセッションのところや、全体で共有しておく点など、SVからの助言などがあった。

●青森などは移動に車で3時間近くかかるエリアもあり、実施方法や時期など難しさを抱えている。
●質疑応答の時間が多く取れ有意義に過ごすことが出来充実した復習につながった。
●研修会場は仙台市中心部にありアクセス等参加者に好評であった。

※それぞれの地域の報告は、次ページ以降の「各地での実践状況」「各地の進捗」に記載。

各地での実践状況 ファシリテーター・フォローアップミーティングの中から

＜宮 城＞※実施

実施主体：みやぎ里親支援センターけやき
期間：2018年５月２日から７月18日（毎週水曜日）10：00-13：00
場所：みやぎ里親支援センターけやき
出席率91.67%/参加里親：8名（女性）
養子縁組里親2名、養育里親 1名、ファミリーホーム4名（里親2名、補助者2名）
地域小規模児童養護施設スタッフ1名
実施体制：ファシリテーター２名、補助者1名

【（みやぎ里親支援センターけやき）2018年5月】

▶2年目である今年度は前半に日程を設定。1月から広報を開始。4月初旬8名が決まった。家庭訪問を実施し参加者との関係づくりを行った。会場は「けやき」で行った。取材が入ると若干手狭な面も見られたが、事前準備が可能になりセッション前に時間的なゆとりがとれた。児童相談所などの見学もあった。準備面では、前日予習と翌日の確認、当日は終了後の振り返りと反省、次回以降の準備という流れで進めた。参加者は初め固い印象もあったが＃4のロールプレイング後あたりから打ち解けてきた。「家庭での実践」には非常に真面目に取り組む様子が見られ、意欲が高い参加者が多く、グループ内の良い刺激になっていた。フォローアップは、一期生は6月10月、二期生は12月に実施。参加者の声「FCPのスキルが実用的で参考になった」という感想が多く、FCPに対する肯定的な評価が寄せられた。

＜千 葉＞※実施

実施主体：千葉県児童福祉施設協議会　里親支援専門相談員会
期間：2018年9月２7日から12月 13日（毎週木曜日）10：00-13：00
場所：生活協同組合パルシステム千葉（託児室あり）
参加里親：8名/出席率：全回出席2名、1回欠席4名、2回欠席1名、3回欠席1名
養子縁組里親1名、養育里親4名、ファミリーホーム2名、地域小規模児童養護施設スタッフ1名
実施体制：ファシリテーター4名
補助者3～4名（お茶菓子準備、配布物補助、ロールプレイング）

▶1セッションを4分割し、ファシリテーター4名でアクティビティ担当を分担。メインファシリテーター、パソコン担当、記録担当、フリーに分けローテーションで行う。スタッフは県内の里親支援専門相談員と前回のFCP受講生に依頼。復習も兼ね見本ロールプレイングを前回の受講生に実施してもらった。全体の印象として、＃3あたりから参加者同士の会話も増え、ムードメーカー的役割の方が出てきた事で、セッションの雰囲気が一気に変わった。「専門用語が分かりにくい」との声があがり、馴染みやすい言葉に変換する必要性を感じた。
▶参加者の声「プログラムが終了してしまうのが寂しい。あと半年位一緒にやっていたい。このメンバーで一緒にやっていたい」
▶その他、千葉では児童養護施設協議会部会、里親会支部とが連携している。FCP説明時はアテンディング、愛着関連のセッションを重点的に取り入れている。

＜青 森＞※計画中

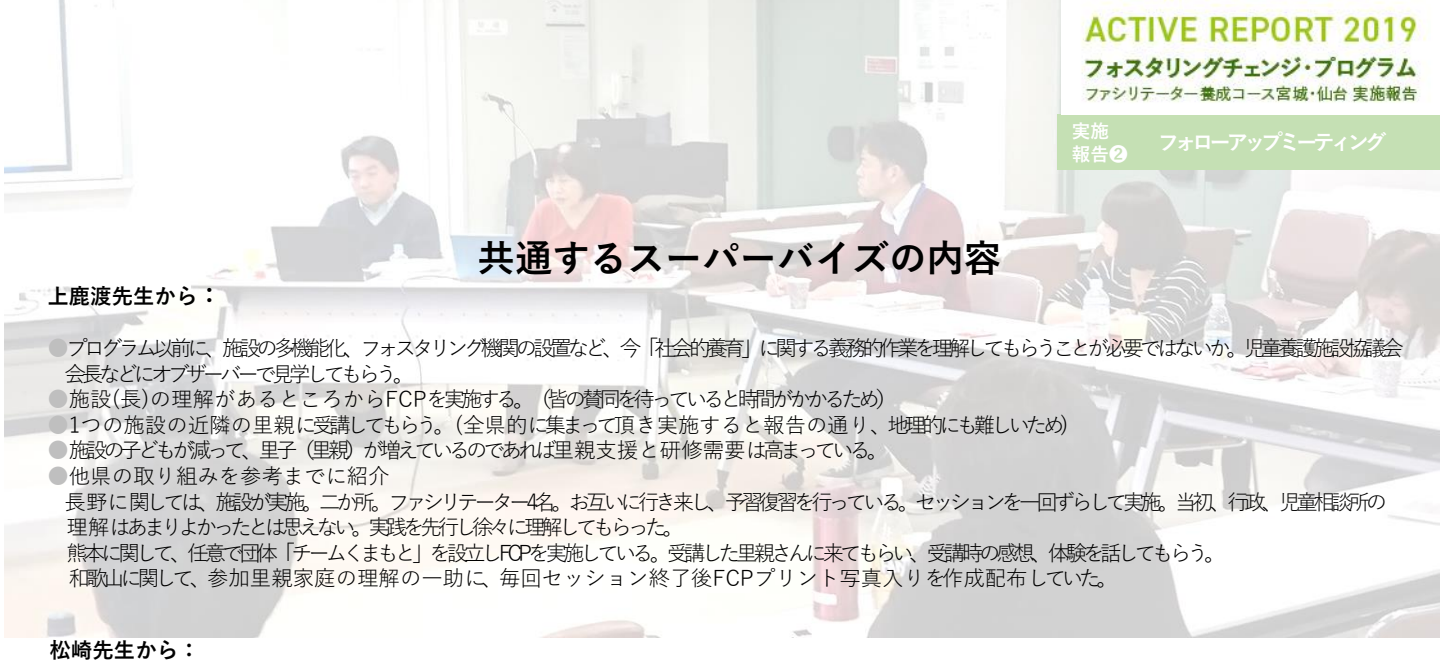
Q:FCP実施に向けた様々な課題について

▶児童養護施設と乳児院の入所も減少傾向にあるが、里親への委託が増加。何か、里親と里子の手助けになる連続的な研修が必要と里親支援専門相談員の共通認識持っており、FCPは研修として最適ではないかと話している。
▶12回連続セッションを里親さんに説明したところ「えっ！（長い、大変?）」という反応であった。
▶実施する場合、青森県は県土が広大で、集まることが難しい。冬期間の積雪を考えると春から夏にかけて、4月から9月間となる。今後、関係機関関係者にどの様にFCPを理解してもらったらいいものか、皆さんから学びたい。

＜仙 台＞

Q:FCP実施に向けた様々な課題

▶実施に向けて現在勉強中である。



共通するスーパーバイズの内容

上鹿渡先生から：

●プログラム以前に、施設の多機能化、フォスタリング機関の設置など、今「社会的養育」に関する義務的作業を理解してもらうことが必要ではないか。児童養護施設協議会会長などにオブザーバーで見学してもらう。
●施設(長)の理解があるところからFCPを実施する。（皆の賛同を待っていると時間がかかるため）
●1つの施設の近隣の里親に受講してもらう。（全県的に集まって頂き実施すると報告の通り、地理的にも難しいため）
●施設の子どもが減って、里子（里親）が増えているのであれば里親支援と研修需要は高まっている。
●他県の取り組みを参考までに紹介
長野に関しては、施設が実施。二か所。ファシリテーター4名。お互いに行き来し、予習復習を行っている。セッションを一回ずらして実施。当初、行政、児童相談所の理解はあまりよかったとは思えない。実践を先行し徐々に理解してもらった。
熊本に関して、任意で団体「チームくまもと」を設立しFCPを実施している。受講した里親さんに来てもらい、受講時の感想、体験を話してもらう。
和歌山に関して、参加里親家庭の理解の一助に、毎回セッション終了後FCPプリント写真入りを作成配布していた。

松崎先生から：

●FCPを実施した72名について評価調査実施して数値を分析したところ、里親と里子との関係性が良くなり、里親の心配が減ったなどの結果が出ていた。但し、元々アタッチメントがあったからという要素は排除できない。一緒に住んでいた他の子への良い影響が見られた。
主観の取り扱いを数値で如何に反映させられるか、課題である。（日本子ども虐待防止学会（JaSPCAN）での報告の中から）

●福岡では、開催準備までは大変だったが、児童相談所の理解と支援が先からあり様々な面で助かった。キャシー、キャロラインからもセッション回数を減らすことは、はっきりと拒否された。
●児童相談所の理解を得られないと出来ない。仮に関係者に説明する時、他都市の例を説明してはどうか。特に「家庭養育支援計画」の「継続研修」をキーワードにする。過去に発行された「報告書」の数値等を活用して説明していくことも有効。

全体からの質疑応答

Q：ごみ袋に大切な物を入れる（失う）エクササイズは「心を揺さぶられた」という反応が受講者からあり、ファシリテーターとして受講者に共感できる部分があり困惑した。どのように捉えてプログラムを実施すればよいか？

松崎先生から
●「子どもの気持ちを知る」ための疑似体験が目的のエクササイズ。
受講者が色々なことを思い出してしまうことは、この目的が果たされたということではないか。有効なエクササイズ。きっと「失うこと。それは何だろう」と感じたからではないか。

上鹿渡先生から
●このエクササイズは何がポイントなのか。理解を深めていきましょう。そうすれば肯定的に取り組むことが出来るようになると思います。確かにつらいことを想起しますが、だからと言って、このエクササイズを変更する必要はないと思います。「自分の大事なものを大事にする人になってほしい。」そんな願いを込めて子どもと関係を築いていく。フォスタリングチェンジ・プログラムの大事なポイントです。

Q：受講終了後フォローアップミーティングはどのような内容のプログラムを実施すればよいか？

松崎先生から
● 福岡では年2回実施。各期合同で実施。但し、受講終了後第一回はその期のみの参加に限定。復習したいセッションまたはエクササイズを尋ねたところ、皆さんそれぞれ多様であったため、フラワーパワーの復習をし、近況報告、お茶会など実施。

今後の予定（上鹿渡先生より）

- 12+プログラム/思春期対象/日本語訳あり教科書/来年度実施予定
- アダプションチェンジプログラム（養子縁組家庭対象）/実施に向け検討中
- ケアリングチェンジプログラム（地域小規模施設対象）/ウエールズで実施/実施に向け検討中
- FCP 2018年度実施状況/コンサルテーション/フォローアップミーティング研修継続
- 今後、フォローアップミーティングは事務局東京に新設一本化。名簿管理、案内、発送
- フォローアップミーティング開催予定は、東京2回・福岡2回/１年間

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

ACTIVE REPORT 2019
フォスタリングチェンジ・プログラム
ファシリテーター養成コース宮城・仙台 実施報告

実施報告 ❸

FCP実施状況（新規開催地区）

●茨城：2018年10月から2019年1月/受講者4名/ファシリテーター2名
●山口：2019年1月から3月/受講者5名/ファシリテーター2名
●沖縄：2018年12月から2019年2月/受講者6名/ファシリテーター3名相談員のサポーター4名
●山梨（甲府）：2018年11月～翌年2月／受講者6名／ファシリテーター2名(うち1名OB)
●大分県 実施予定、その他、検討中の地域あり。

【FCP山口 2019年1月】

【FCP茨城 2019年3月提供】

【FCP甲府 2019年3月提供】

FCP実施済み、実施中の感想、準備中の感想 の中から（ファシリテーター）

▶「里親のみなさんがセッションを追うごとに、その変化と効果を口にされる度に私たちも里親さんと喜びを共有することができました。後半に入り私たちから伝えることが難しくなり、私たちの伝え方、ファシリテーションを振り返りながら実施しています」
▶「実施中も、実施済んでからも、自分の準備不足を強く感じました。セッションが終わってから、『伝え方をこうすれば良かった。（実施したものとは）違うリアクションの方が良かったかな。』など多数ありました。他の業務との兼ね合いもありますが、欲を言えば、各セッション前日にタイムを計りながらの本番同様のシミュレーションを実施してから当日を迎えたかったです。」
▶「FCPを始めて里親さんの直接の変化をみるまでは、不安や自分自身もこれがどのように里親さんや里子に変化をもたらすものなのかと半信半疑でした。しかし、セッションを通していくなかで里親さんや里子の関係が良くなっていく事、関わりが肯定的になってきたことを実感していき、FCPの大事さ必要性を感じていきました。その中で課題としては、準備から実施期間の3ヶ月前後、やはり通常業務との兼合いに苦慮しました。
▶プログラム本を読み込むと、内容の理解が自身に取り込めず、どうやって伝えればいいか悩み、時には、本通りに説明することも多々ありました。後半部分から、ファシリテーターにも少し慣れ、スキル部分については事例を交えて伝えやすくなりました。
▶里親さんたち達が、忙しい中、FCPを意識して取り組んで頂き、子ども達との関わりやこれまでのやり方を変えていこうと頑張っている様子に感銘を受けました。里親さんと里子さんの関係がより良好になり、生活の中でいい空気が流れ、子ども達の変化を報告して頂いたFCPは素晴らしいと感じます。今後、予算面や事務局の必要性も含めて地域支援や他業務との兼ね合い、どうやって継続していくかは課題だと思います。」

FCP参加後感想の中から（参加里親）

▶「セッション1，2では初めて聞く言葉が多く戸惑うこともありましたが、その後は子どもの私への反応が変化していき、何より自分自身の考え方が変わりました。今までの自分自身の子どもに対する関わり方をふり返るよい機会になりました。」
▶「・受講した仲間とつながって、学んだ事を復習しながら実践を継続していきたい。
・子供の良いところに注目しようとすることが増えた。
・NAT'SからPAT'Sへと意識が変化した。
・事前に家庭の様子を知ってくれているので、具体的なアドバイスが受けられ良かった。」
▶「自分自身（里親）が変わり、里子も変わってきて以前より関係性が良くなった」
▶「もっと早くFCPを学びたかった。まだ小さい子を養育している人達が羨ましい」
▶「一回FCPを学んだだけでは幾つ学べたか忘れてしまわないか心配。今後も続けて欲しい。」
▶「他の里親にもやるべき」
▶「オブザーバーとして参加したらより理解が深まるかもしれない。」
▶「実子にも使いたい」
▶「パートナー（里父）にも受けさせたい」
▶自分の関わりを客観的に整理する助けになり、関わっている最中にも自分の関わりに意識を向けられることにつながった
▶毎回趣向がこらしてあり、あきることなく時間を過ごすことができたのだが、内容がもりだくさんなので、ついていくのに精一杯な部分もあったかもしれないと感じた
▶フィードバックはとても勉強になりました。みなさんの関わりをきき、自分自身の関わりのヒントにもなり学ぶことが多かったです。

ACTIVE REPORT 2019
フォスタリングチェンジ・プログラム
ファシリテーター養成コース宮城・仙台 実施報告

実施報告 ❹

●プログラム実施支援
沖縄会場

沖縄会場では、支援の希望があり、プログラム実施準備や参加里親をお迎えする環境づくりのために協力しております。（プログラム実施決定団体への支援支援希望された場合は、1団体5万円、先着5団体迄）

【データ提供：FCP沖縄会場2018年12月】

総 括 ／ 結びにかえて

●総括／これまでと今後の展開

2016年3月に福岡で第1回ファシリテーター養成コースが実施され、同年5月から福岡市で日本最初の里親向けプログラムが実施されました。宮城県でのファシリテーター養成コースは4回目にあたり、そのあと2019年3月に和歌山で5回目のコースが開催され全国のファシリテーターは100名を超えました。2018年度は北海道から沖縄まで全国18か所で里親向けプログラムが実施されました。来年度は日本人トレーナーによるファシリテーター養成コースの開催や、新たに思春期版プログラムの実施も予定されています。

本プログラムの準備・実施を通して里親支援者の専門性も向上し、個別相談においてもそれぞれに応じた助言に生かせることがわかりました。また、2017年度全国11か所で本プログラムに参加した約70名の里親を対象にした評価でその効果も確認されました。今後、できる限り多くの方に本プログラムを受講いただき、子どもたちに様々なよい変化が確実にもたらされることを願っています。

上鹿渡 和宏　長野大学社会福祉学部 教授
（フォスタリングチェンジ・ファシリテーター養成コース企画アドバイザー）

●結びにかえて

里親と子どもの関係を改善する特効薬はありませんが、フォスタリングチェンジ・プログラムは、大きな助けとなることと思われます。東北で初めてのファシリテーター養成研修を終え、今後さらにFCP研修実施地区が増えることが予想されます。また、2019年度からは、対象年齢の上がった思春期向けのFCP研修が始まるとのことです。待ち望んでいた里親さんも多くいることと思います。10年後も続く里親子の良好な関係を思い描きながら、FCP研修の全国的な拡がりを期待したいと思います。

卜蔵 康行みやぎ里親支援センターけやきセンター長／
（日本ファミリーホーム協議会会長／宮城県なごみの会会長）

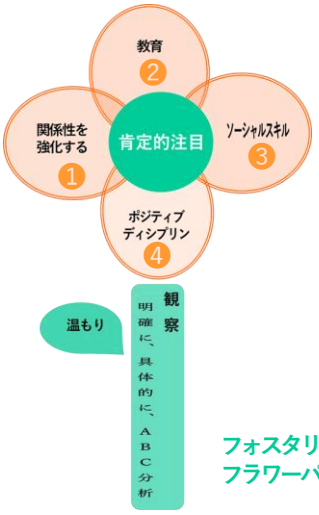
フォスタリングチェンジプログラム（概要）

●プログラムの構成

- 週１回３時間、グループのセッションを12回（約3か月）継続。
- 対象者は6名から12名まで。
- 実際に子ども（幼児から小学生）を委託されている里親（一人の子どもを対象とする）
- 最低2名のファシリテーターが担当する。
- お茶やお菓子が用意され、温かい雰囲気のなかで実施される。

●プログラムの内容は、フラワーパワーに示されているような４つの要素からなっている。

- 養育に最も必要な要素として「温もり」が基本となる。
- 以下の❶～❹の順番でｾｯｼｮﾝが実施されている。



フォスタリング
フラワーパワー

❶ 関係性を強化する～
褒める、アテンディング(肯定的注目)、代替行動を選ぶ、有形の報酬、ご褒美表、遊び

❷ 教　育～
子どもの学習を支援する、宿題方略、子どもの読書を支援する、学校とのｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝを取る

❸ ソーシャルスキル～
ﾘﾌﾚｸﾃｨﾌﾞ・ﾘｽﾆﾝｸﾞ、思考と感情に名前を付け管理する、ｱｲ･ﾒｯｾｰｼﾞ、問題解決、ｽﾄｯﾌﾟ・ﾌﾟﾗﾝ･ｱﾝﾄﾞ･ｺﾞｰ

❹ ポジティブディシプリン（肯定的しつけ）～
明確で穏やかな指示、選択的無視、自然な結果と合理的な結果、家族のﾙｰﾙ、ﾀｲﾑｱｳﾄ

さらに、プログラムの特徴として以下の点があげられる。

プログラム実施前に担当者が里親宅を個別に訪問し、規定の聞き取りを実施し、その情報をグループでのセッションに生かすなど、家庭訪問による事前の関係づくりによってプログラムへの里親の参加・継続率が高く維持されている。各セッション終了時に里親からの評価が行われ、相互性のあるプログラムとなっている。里親は基本的に1人の子どもを対象に行動観察、プログラムの演習実践を試行するが、他きょうだいにも平行して応用することが可能である。また、子どもの行動やアタッチメントについて事前事後の評価を行うことができる。

●セッション内容

	題　目	具体的内容
1	グループを創設し、子どもの行動を理解し記録する	子どもの経験、発達に関する理解と問題の再認識
2	行動への影響：先行する出来事及び結果	アタッチメント理論、社会的学習理論、ABC分析
3	効果的に褒める	子どものニーズと不適切な養育の関係、養育者自身の経験の話し合い
4	肯定的な注目	遊びの役割、アテンディング、説明的コメント
5	コミュニケーション・スキルを使い、子どもが自分の感情を調整できるように支援する	子どもの感情理解とコントロール能力への注目、子どもの視点
6	子どもの学習を支援する	教育の状況、特別なニーズ、読むことの支援、マイナスの自動思考
7	ご褒美およびご褒美表	「私は」メッセージ、適切な行動への変化とその強化
8	指示を与えることおよび選択的無視	効果的な支持、賞賛、無視の方法
9	ポジティブ・ディシプリン（肯定的なしつけ）および限界の設定	家族のルール、自然な結果、合理的な結果、子ども自身の学びを支持
10	タイムアウトおよび問題解決方略	適切なタイムアウトの実施方法、問題解決方法：ストップ・プラン・アンド・ゴー
11	エンディングおよび総括	子どものライフストーリー理解を助ける、次の学校への移行、内容のふりかえり
12	肯定的変化を認め、自分自身をケアする	支援者のケア、自尊感情の重要性

引用出典：
カレン・バックマン、キャシー・ブラッケビイ、キャロライン・ベンゴ他,上鹿渡和宏他監訳,乙須敏紀訳,
『フォスタリングチェンジ』FOSTERING CHANGES Second edition,福村出版,2017【ファシリテーターマニュアル】
松﨑佳子 SOS 子どもの村JAPAN フォスタリングチェンジ・プログラム実施報告2017. p5-6

ACTIVE REPORT 2019

フォスタリングチェンジ・プログラム

ファシリテーター養成コース宮城・仙台 実施報告

発 行　2019年　3月

社会福祉法人仙台キリスト教育児院
みやぎ里親支援センターけやき
〒981-0906
仙台市青葉区小松島新堤7-1
仙台キリスト教育児院内

TEL 022-718-1031
E-mail：keyaki@ia1.itkeeper.ne.jp

http://miyagisatooya-keyaki.com/
公益財団法人 日本財団 助成事業

Fostering Change Program
ACTIVE REPORT 2019

フォスタリングチェンジ・プログラム
ファシリテーター養成コース宮城・仙台 実施報告

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

みやぎ里親支援センター けやき